

# 市史編さんだより 第6号

発行 平成30年11月30日

## 伽耶院の採燈大護摩供法要が執り行なわれました



2018年10月8日(月・体育の日)、志染町大谷・伽耶院にある「採燈大護摩供」に行きました。この護摩供養には、「不動明王の智火で煩惱を焼きつくす」という意味があります。まず目に留まったのは山伏の特徴的な衣装です。頭の上にチョコンのつた帽子(頭巾)、胸や背中には丸い房(梵天)、肩から法螺貝を提げ、おしりには毛皮を身に着けていました。法要のはじまりに、200名程の山伏が一斉に法螺貝を吹くと、「ブオー」という動物の遠吠えのような音が辺り一帯に響きました。山伏問答などの儀式のあと、生のヒノキの枝が積まれた護摩壇に火が点けられると、白い大きな煙がもくもくと立ち昇り

ました。関西各地から集まった山伏たちが声をそろえて読経するなか、参拝者の護摩木が焚かれました。境内には、家族連れやカメラを持った人など多くの参拝者が訪れていました。参拝者は住職による解説を場内放送で聞きながら法要を見ることができます。すべての儀式の終了後に行われた餅まきでは、厳かな雰囲気が一変、和気あいあいとしたムードに変わりました。(小澤)

(1)「採燈大護摩供法要」伽耶院ホームページ参照

伽耶院 〒675-0513 兵庫県三木市志染町大谷 410  
【公共交通機関】神戸電鉄「緑が丘駅」下車。神姫ゾーンバス「緑が丘駅」発「ネスタリゾート神戸」行、「伽耶院口」下車。徒歩10分。  
【自動車】山陽自動車道「三木東IC」より北へ4分

# 《市史の窓》 池野村明細帳にみえる「広野」

志染町の窟屋区有文書から、天保13年(1842)に作成された「池野村明細帳」が見いだされました。池野村は、現在の窟屋地区の前身の村です。明細帳は、現在でいう市勢要覧のような史料で、ある時点の村についてさまざまな情報がまとめて記されたもので、昔のことをできるだけ多く知りたい私たちにとってたいへんありがたい史料です。

この明細帳には、村の土地(面積、石高)、年貢、他村との共有地、農作物、ため池、井堰(かんがい用水の取り入れ施設)、川や橋、寺や神社、村の人口、職人や商人、牛の頭数などがくわしく書き上げられています。

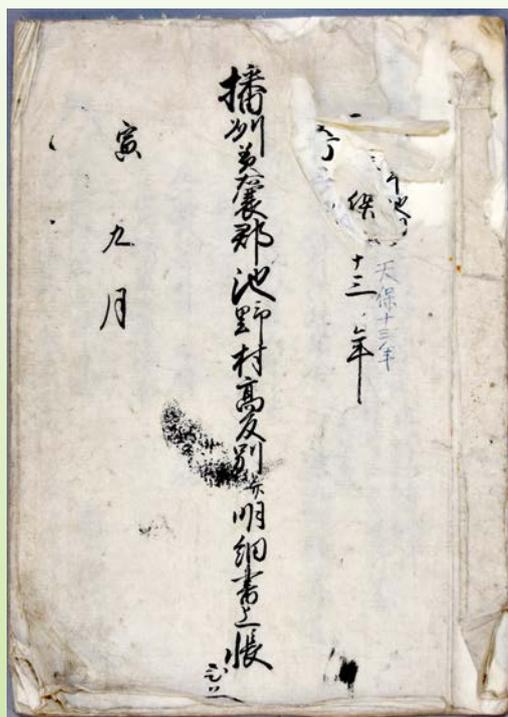
話題豊富なこの明細帳について、興味深い記事をひとつだけとりあげたいと思います。それは他村との共有地のことに触れているところです。明細帳には次のように記されています。

一南野と申て広野御座候、志染谷拾ヶ村入会之場二而前々より草柴苧二行来り候、右之場所御年貢無御座候

現代語訳をするとつぎのような感じですよ。

一「南野」と呼んでいる広い野がございます。ここは志染谷にある10か村が共同利用している場所で、ずっと以前から草や柴を刈りに行っております。この場所に関する年貢はございません。

池野村を含む志染谷からみて「南野」として想定できるのは、現在の自由が丘、緑が丘、青山の各ニュータウン領域の一部を含むかつての低丘陵地と神戸電鉄粟生線をはさんだ南西の広く平坦なエリア(右図の黒太線内の範囲)です。このエリアの西側の一部が文字通り「広野新開」として農地開発され始めるのが幕末期です。それまでは、もっぱら志染谷の村人たちがはるばるやってきて、ススキのような茅や灌木の柴



などを刈り取っては村へ持ち帰るような原野だったのです。ごく近くの小林新田というところへはもと明石藩主で当時隠居の身だった松平斉韶が家臣らを引き連れて大規模な狩猟を行っています(安政年間か)。それだけ鳥獣も多かったのでしょう。

当時の人にとって非常に用益性の高い茅や柴を得られる山や野はまことに重要な存在で、志染の村人たちによる共同利用の一方で、他村による盗伐などに対しては厳重に警戒していました。しかし、一般的に近代以降、生活の変化やエネルギーの転換

が進行することによって、こうした山野も次第に村人の関心から遠のいてゆき、平地の原野は農地や宅地へ転換するなどの大きな変化が見られ、山地では針葉樹の植林が進められるか、時には大規模なニュータウン開発の対象ともなりました。

池野村明細帳のわずかな記述は、江戸時代の志染谷の村人たちと山野との深いかわりを偲ばせてくれる貴重な証言なのです。(木村)



明治中期の「南野」付近(仮製二万分一地形図を加工)

## 市史の調査から…(2)

市史編さんグループが調査した市域の史料群の一部を紹介します。

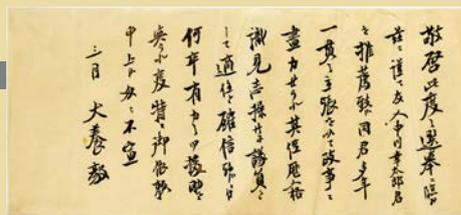
### 福田紘一家文書

地名：美囊郡中吉川村吉安<sup>きちやす</sup>

点数：96点（目録件数）

年代：明治29年（1896）～大正4年（1915）

内容等：本文書群は、主に福田健之介氏が作成、收受した明治中ごろから大正はじめの史料が中心です。土地経営に関する文書や、米穀検査に関する文書が含まれています。また、明治末から大正はじめにかけての選挙に際しての支援依頼等の書簡が多く、他地域からの書簡も含まれ、美囊郡内における福田氏の集票力の高さがうかがえます。



### 篠原神社文書

地名：美囊郡口吉川村殿畑村<sup>どのばた</sup>

点数：56点（目録件数）

年代：寛文3年（1663）～昭和52年（1977）

内容等：本文書群は、篠原神社（口吉川町殿畑）に伝来した文書です。祝詞や棟札など神社関係の史料のほか、口宣案や宣旨、神道裁許状、宗源宣旨など神主の地位に関する史料も見られます。また、大正年間の神主柴田信久氏は、細田神社の神主も兼務していたので、同神社関係文書も数点含まれています。社務所には、宝暦4年（1754）六所大明神神殿修復時や、寛政元年（1789）再建時のものなど、境内の移り変わりを知ることができる棟札が6点保管されています。



### 大島区有文書

地名：美囊郡口吉川村大島

点数：158点（目録件数）

年代：延宝7年（1679）～昭和51年（1976）

内容等：本文書群は、明治9年（1876）の合併以前、大殿林村、中島村と呼ばれていた時代のものから、現代までの史料で構成されています。近世後期中島村の年貢割付状がややまとまって残されているのが注目されますが、延宝年間幕府領時代の「大殿林村検地帳」をはじめ、善祥寺（村）の合併願、近代の耕地整理関連史料なども含んでおり、江戸時代から今日までの大島地区の土地の変遷をうかがい知れる文書群です。



### 口吉川小学校文書

地名：美囊郡口吉川村／兵庫県三木市口吉川町

点数：16点（目録件数）

年代：明治25年（1892）～昭和58年（1983）

内容等：本文書群は、主として小学校の運営や教育に関わる資料が主です。

「学校沿革誌」が明治25年の開校から昭和42年（1967）までであるほか、昭和初期の「郷土教育」に関する教育資料が豊富に残されています。

また学校関係以外の口吉川に関わる資料（主として社会教育、地方改善事業など）が含まれており、学校だけでなく地域の様子についてもわかる資料群です。



## 《市史の小耳》「大將軍神社」のはなし

4月13日、口吉川町東中のある方のお宅をお訪ねし、お世話をされている近くの「大將軍神社」のことについてお話をお聞きしました。私たちは普段、「大將軍神社」と呼びますが、地元の皆さんは、「はたけのもり」と呼んでいるそうです。「大將軍神社」は、戦国時代、羽柴秀吉に攻められて落城した近くの衣笠城（西中）の殿様と家臣を祀るために建立されたのですが、祭神はなんと、攻めた側の「豊臣秀吉」…。理由は、やはり、当時の世をはばかったことでした。

また、その方に見せていただいた江戸時代の村絵図には、この「大將軍神社」の近くに別の「大將軍神社」が載っていました。そういえば、市内にはいくつか「大將軍神社」があります。場所によって祀られている「大將軍＝神様」が違いますが、名前の由来に興味を湧いてきます。（廣井）



## 編さん室トピックアップ

### 口吉川小学校講演会

8月29日、口吉川小学校で、口吉川ふれあいまちづくり協議会ふるさと部会主催による講演会が行われました。講師は、9月末で編さん室事務局を退任された川内淳史さん（現・東北大学）が担当し、「口吉



川小学校における「郷土教育」の実践」と題して講演されました。

川内さんは、明治時代以降「教育村<sup>きょういくそん</sup>」とよばれるほど学校教育を重視した口吉川村の教育史をたどるなかで、この村がとりわけ「郷土教育<sup>きょうど</sup>」に力を入れていたこと、さらに大正時代以降、真の日本人としての人格形成を目指すべく全国的に展開した「全人教育<sup>ぜんじん</sup>」にも積極的に取り組んでいたことなどを口吉川小学校文書を紹介しながら講演されました。

### 市史編さん室の機構改革

今年度より三木市役所の機構改革が行われ、昨年度まで教育委員会にて実施していました市史編さん事業につきまして、三木市総務部に設置された「市史編さん室」として進めていくこととなりました。

業務はこれまで同様、みき歴史資料館の2階で行っています。どうぞお気軽にお訪ねください。

## 三木の古い資料や写真の情報をお寄せください！

- ◆ くずした文字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書
- ◆ 和紙に書かれた冊子などの古い本
- ◆ 明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）
- ◆ 三木市域の古い写真、絵画、映像など
- ◆ 自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料
- ◆ 古いふすまや屏風<sup>びょうぶ</sup>（古文書が、下張りに使われていることがよくあります。）

皆さんのお近くにある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史遺産です。上記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご一報ください！

市史編さんだより 第6号（平成30年12月1日発行）

編集発行：三木市総務部 市史編さん室  
連絡先：〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階  
電話 0794-83-1120 / FAX 0794-83-1190